

## 大学院生の私と高校教師の私

広島大学大学院総合科学研究科博士前期課程2年  
鈴峯女子高等学校非常勤講師 数学担当

**寺田未来** (てらだ みき)

私は現在、社会心理学研究室に所属し、高校に非常勤講師として勤めています。大学では「自己調整的学習と対人関係の関連」というテーマに興味をもち、大学院進学後もこのテーマに取り組むのと同時に、実際の教育現場に赴き、元気な生徒さんと毎週ふれ合う生活を続けています。

担当教科は数学です。数学というと、難しくて苦手なイメージがつきやすく、モチベーションが上がらない生徒さんは多いのではないのでしょうか。私自身、数年前まで生徒という立場で、数学に興味ももてず、宿題やテストに追われていたことを覚えています。しかし、苦手でも必死でがんばる生徒、失敗が続いても「次こそ！」とやる気みせる生徒、などさまざまな生徒さんとふれ合うことで、そんな心の理解に役立つ心理学の重要性や、一方でその理解の難しさを感じる毎日です。

授業では、生徒さんに自発的な態度を促せるよう、常に心掛けています。それは生徒さんが自分たちで決めて実行する授業です。間違ったところを直すだけで終わるのではなく、そこからわかる自分の癖を見つけてもらいます。また小テストでは2題の問題を出し、どちらか1題を自分で選んで解いてもらいます。ただし2題ともやってもいいことも最後に伝えます。そこには心理学の知識で効果があると思った「強制しない学

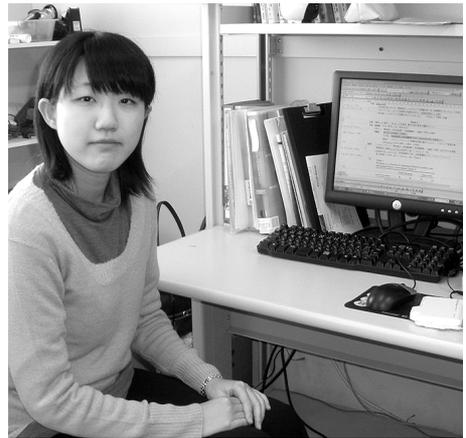
習」を実践し、生徒さんの自主性や一人ひとりがもつ意欲にかけてみたいという思いがあります。小テストを毎週つけていると、今まで1題だけ解いていた生徒さんが今日は2題解いている、ということがよくあります。そのような生徒さんは決まって、その日の授業でわからない問題を質問し、できるようになった！という体験をした子です。このときは、生徒さんのモチベーションにふれることができたような気がして、うれしさを感じます。

一方で不安もあります。これがはたして成功しているのかどうかは、私自身わかりません。生徒さんを想った行動でも理解してもらえず、強制しないことが逆に「先生は諦めているからそう言うんだ」と受け止められてしまったら……、と考えることもあります。そのとき、私は改めてヒト対ヒトの接し方、心理の深さを実感します。

私は今、生徒さんと日々接するなかで、自分自身も一緒に成長させてもらっています。生徒さんはみな常に何かを投げかけています。その心の葛藤、迷い、悩みなどを理解するためには、私にはこれからまだまだやるべきことがた

### Profile — 寺田未来

2009年、広島大学総合科学部総合科学科卒業。同年、広島大学大学院総合科学研究科総合科学専攻に入学。鈴峯女子高等学校の非常勤講師を兼任し、数学を担当。専門は社会心理学。



研究室の私

くさんあると思います。そのためにも生徒さんが授業やそれ以外の時間でみせる動作や発言に目を向けながら、ときには生徒さんの中に入り、ときには離れて生徒さんの心を察する時間を大切にしていきたいです。

心理学を学びながらの現場で率直に感じることは、理論と実践の差です。といっても、これはある意味当然で、むしろそうでなければいけないのではないかとも思います。しかしその差を感じるうえで、活かせる部分と活かせない部分の存在を知り、大学で学ぶ心理学を活かして生徒さんの理解を深めたり、反対にそれだけではわからない実際の部分を、先生方あるいは生徒さん自身から教わり、それが生徒さんにとって良いサポートになることが、心理学を学ぶことと実際の教育現場との架け橋ではないかと思います。